【見本】

私大対策模試

国　語

・こちらの見本に掲載されている問題は、大問の一部分です。
・実際に実施されます模擬試験では構成が変更になる場合があります。
・長文の素材に関しまして、見本では過去に使用した文章を用いておりますが、実際に実施されます模擬試験では新規の文章を使用いたします。

〔一〕 次の文章は一九二二年に発表されたものである。これを読んで後の問いに答えよ。

宣伝という文字自身にはガンライ[1]別にそう押しつけがましい意味はなくてもよいように思う。道や教えを宣べ伝えるという事は、取りようでは大変穏やかな仕事のように思われる。しかし同じ事でもプロパガンダ*というと何だか少し穏やかでないような気持がする。これは単にこの言葉の特殊の音響から来る感じなのかもしれない。

一般的に宣伝というものの手段方法が必ずしも穏やかで物静かであってはいけないという事は考えられない。昔の宗教家や聖賢の宣伝にはかなり平和的なのもあったように思われる。しかし今日の「宣伝」という言葉には、正にそれとは反対な余味*があり残味がある。最も平和的なのでも楽隊入りの行列や、旗を立てた自動車や往来人の鼻の先に差しつけられる印刷物や、そういう種類のものがいつでも聯想される。もっと穏やかでないものならいくらでもあることは云うまでもない。今日のような世の中ではこういう方法を取るより外に仕方がないというところから、自然に流行するようになったものと思われる。ああいう方法によれば少なくも一時的の効果はある程度まで得られるに相違ない。多くの場合にまた宣伝の目的がほんの一時的のものであるとすれば、それで結構な訳であるかもしれない。甲の宣伝の効果が花火のように輝いて消える頃に乙の宣伝が砲声のように轟いて来る。そうして一つのものの余響はやがて次の声の中に没し、そういう事が順次に引き続いていつまでも繰返される。それが丁度例えば仕掛花火か広告塔のイルミネーションでも見るような気がしてならないのである。つまり［A］ような宣伝はわりに少ない。

善い事だから宣伝しなければならないという強い信念の下にすべての宣伝は行わるべきものであろう。便宜その他のあまり真剣でない雑多の動機から行わるるものもないとは限らないが、そういうものは論外である。本当の宣伝ならば、宣伝さるる事柄の絶対価値に対する強い信念があっての上での事に相違ない。そういう信念があった上でそれを宣伝する方法手段がかなり問題になる訳である。そこでもしこの世の中に「善い事」が一つ而*してただ一つしかなかった場合には事柄は誠に簡単であるが多分そうでないとなると面倒になって来る。

想うに宣伝という事は、云わば「世の中をただ一色に塗りつぶそうとする努力」である。もし世に赤ならば赤、青ならば青が絶対唯一の正しい色であれば、それはあるいは如何なる手段によってもこの世の中をその一色に塗らなければならない事になるかもしれない。し

かし私には、そうは思われない。スペクトル*の色がそれぞれに美しい本当の色であるように、やはりそれぞれ正しい道なり原理なりが併立し得るように思われる。たとえ道や原理は唯一だとしても、同じ道や原理にも色々の相があり面があり、スペクトルがある。もしそうでなかったら、元来宣伝などを待たずして世は自然に一色になっているはずかもしれない。あるいは宣伝というものの存在するという事実自身が正にこの事を証明しているのかもしれないとさえ思う。[2]

原理の白色光に照らされた時に万象は各自に特有な色彩を現わして柳は緑に花は紅に見える。しかし緑色の宣伝する人は太陽の前に緑色硝子（ガラス）のスクリーンをかけて、世の中を緑色にしてしまおうと考えているかのように見える場合がある。もしも花が緑にならなければならない道理のある場合ならば、［　B　］。そうでないところを見ると、紅の花はやはり紅でなければならない理由があるように思う。

（中略）

ナポレオンは「フランス」を宣伝し、カイザーは「ドイツ」を宣伝した。これらはある意味ではたしかに利目（ききめ）はあった。しかしこの場合にも罪のない紅の花は数限りもなく折られ踏み潰されて、而しておしまいには宣伝者自身それらの落花の中に埋められた。[3] その墓場からはやはりいろいろの草花が咲き出ている。

宣伝される事柄が仮（か）りに「悪い事」や「無理な事」や「危険な事」であったとしたら、その場合には結果は大して恐るべきものではあるまいと思う。何故（なぜ）と云えば、そういう宣伝は無制限に波及する気遣いがないからである。これに反して「善い事」の宣伝の方は却（かえ）って遥（はる）かに危険であるかもしれない。何故とならば、それはひょっとしたらどこまでも拡（ひろ）がるかもしれないという恐れがあるからである。そうしてこの一つの「善い事」のために他にあらゆる「善い事」がたたき折られ踏み潰される心配があるからである。いくら折られ潰されても決して絶滅する恐れはないにしても、そのために要求される犠牲の価は時には安くないものになる。

そのような侵略的（アグレシーフ）な宣伝が現在どこにあるかと聞かれるとすぐ適例を挙げる事は困難かもしれない。しかし現在の宣伝という言葉には、いつでも、どことなしにそういう「匂い」があり「影」があると云えば、それはおそらく多くの人が首肯するであろう。[4] ある一部の人々が宣伝というものに対して抱いている漠然とした反感のようなものも、一つはここに帰因するのであろう。

店の飾りや、広告の楽隊や、旗印を押し立てた自動車やは、あれは最も罪のない宣伝方法に属する。それが陽気で眩目的（げんもくてき）であるだけに

効果は大概 C で、人の心のほんの上面を撫でるだけである。そして撫でられたくない人は、自由にそれを避ける事が出来る。人の門内や玄関まで押しかけて来ない。その点でも市会議員の選挙運動などよりはよほど穏やかでいいものである。

これに反してもっと真面目で真剣なだけに一番罪の深い人間的な宣伝の場合と思われるのは、避くべからざる羈絆*によって結ばれた集団の内部で、暗黙のうちに行われる、朋党の争いである。例えば昔あったような姑と嫁の争いである。姑は「姑」を宣伝し、嫁は「嫁」を宣伝するために、一家に風波が立つ。双方互角である場合はまだ幸いである。いずれか一方の勢力が勝れば禍である。同じような事は、異なった人生観や社会観を有った人々の群の間に行われる。いずれも一つの善い事を宣伝せんために他の善い事の存在を否定するから起る。困った事にはそれがどちらも善い事なのである。そしてそれを融和すべき相対原理がまだ認められない事である。

5 「桃や李は、物を言わないのに樹陰にはひとりでに道が出来る。」昔の人はこんな事を云って侵略的宣伝を否定した。しかし今のように桃や李の数が殖えてしまっては、この言葉は本当に時代後れになったのかもしれない。それにしても本当に好い美しい優れた花なら、少なくもそういう花を捜して歩いている人の眼にいつかは触れないものだろうか。危険を冒して懸崖にエーデルワイスを捜す人もある。6 昼提灯を提げて人を捜した男もあったのである。

しかしこれはあまりに消極的な考えかもしれない。自分はここでそういう古い消極的な独善主義を宣伝しようというのではない。また自然の野山に黙って咲く草木の花のように、ありとあらゆる美しい事、善い事が併立して行かれないからと云って、そのためにこの世を果敢なんで遁世の志を抱くという訳でもない。

宣伝が理想的に行われて天下を風靡する心配がないからこそ、世に宣伝という事がいつまでも行われている。宣伝の必要のあるというのは、つまりその事柄がどこか偏頗*であり、どこか無理がある事を証明するのだとすれば、結局宣伝というものは別に恐ろしいものでも何でもなくなる訳である。むしろ適当な程度の宣伝が各方面からせり上げてそのすべての合力によって世の中が都合よく正当な軌道を運転して行くのかもしれない。あるいは実際多くの宣伝者自身がこれくらいの心持で銘々の宣伝をやっているのかもしれない。そうだとすれば始めから問題はなくなる。これまで自分の考えたような色々の心配などは畢竟*誇大妄想病者の空中に描く幻影のようなものかもしれない。しかし7 果してそうであれば、現在行われている色々の宣伝がもう少しちがった色彩を帯びてもいい訳ではあるまいか。

（寺田寅彦「神田を散歩して」による）

注

＊プロパガンダ…　主義・思想などの宣伝。特に、特定の考え方に人々を導くための、政治的な意味合いの強い宣伝。
＊余味があり残味がある…　振りがなの「バイ・ゲシュマック」と「ナハ・ゲシュマック」は、ともに「余韻、後味」を意味するドイツ語。
＊而して…　それと同時に。なおかつ。
＊スペクトル…　光をプリズムに通すことでできる、さまざまな色に分かれたしま。
＊羈絆…　きずな。
＊偏頗…　かたよっていること。
＊畢竟…　結局のところは。

問一　傍線部1「ガンライ」に当たる漢字として最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **1** 。

[類似形式の出題あり] 青山学院・法政

①　願来　　②　元来　　③　含来　　④　巌来　　⑤　丸来

問二　空欄Aに入れるのに最も適当な語を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **2** 。

[類似形式の出題あり] 明治・同志社・関西学院

①　身にあまる　　②　身を焦がす　　③　身が固まる　　④　身を滅ぼす　　⑤　身にしみる

問三　傍線部2「この事」とはどのようなことであるか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **3** 。

[類似形式の出題あり] 青山学院・中央・法政

①　世の中に唯一存在する正しい道や原理を広めるためとはいえ、どんな手段を使ってもよいというわけではないこと。
②　正しい道や原理はすべて、善い事だから宣伝しなければならないという強い信念のもとで世の中に広められていること。
③　世の中の正しい道や原理は一つではなく、唯一であったとしてもその道や原理には様々な相や面などが存在すること。
④　正しい道や原理は多様な相や面を持つものであり、世の中でそれらを統合するには並々ならない努力が必要であること。

⑤　世の中で正しい道や原理を追い求めるには、スペクトルの色を分析するような科学的な視点が不可欠であること。

問四　空欄Bに入れるのに最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **4** 。

［類似形式の出題あり］明治・青山学院・中央・法政・立命館

①　花弁の中に自然に葉緑が出来て然（しか）るべきではあるまいか

②　花弁に緑色硝子のスクリーンをかけて然るべきではあるまいか

③　花弁の紅をもって緑色に置き換えて然るべきではあるまいか

④　花弁がそもそも存在しなくとも然るべきではあるまいか

⑤　花弁に緑を有する花は絶滅していて然るべきではあるまいか

問五　傍線部3「おしまいには宣伝者自身それらの落花の中に埋められた」とはどのようなことであるか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **5** 。

①　ナポレオンやカイザーの宣伝を信じた人たちが、破滅的な運命をたどったということ。

②　「フランス」や「ドイツ」といった国の人々が、最終的には困窮に陥ったということ。

③　異なる宣伝を行っていたナポレオンとカイザーが対立し、共倒れになったということ。

④　後に現れた別の宣伝者たちによって、ナポレオンやカイザーが打ち倒されたということ。

⑤　宣伝者となった人間も、実際には罪のない紅い花と同様の存在に過ぎないということ。

問六　波線部4「首肯する」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **6** 。

［類似形式の出題あり］明治・法政・関西学院

①　大いに参考にする　　②　もっともだと認める　　③　一応話を合わせる

④　よくわからないが尊重する　　⑤　なんとなく同意する

問七　空欄Cに入れるのに最も適当な語を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **7** 。

[類似形式の出題あり] 明治・青山学院・法政・立命館・関西学院

①　皮相的　　②　断続的　　③　合理的　　④　芸術的　　⑤　融和的

問八　傍線部5「桃や李は、物を言わないのに樹陰にはひとりでに道が出来る」は「桃李(とうり)もの言わざれども下自(おの)ずから蹊(みち)を成す」という故事成語を前提とした表現である。これと同義の故事成語として最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **8** 。

[類似形式の出題あり] 明治・法政

①　青は藍より出(い)でて藍より青し

②　李下に冠を正さず

③　百里を行く者は九十を半ばとす

④　徳は孤ならず必ず隣あり

⑤　一葉落ちて天下の秋を知る

問九　傍線部6「昼提灯を提げて人を捜した男もあったのである」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **9** 。

①　捜し方として意味のない方法に固執するあまり、結局は単なる笑い者になってしまった者がいたということ。

②　本当に優れた花の知識を持つ人を捜すために、他人からは理解しがたい方法をとった者がいたということ。

③　「善い事」を宣伝する手段として、派手すぎるくらいの方法を使って人々の目を引いた者がいたということ。

④　自分が本当は何を求めているのかをはっきり把握しないまま、手当たり次第に行動する者がいたということ。

⑤　無駄としか考えられない手段まで使うほど、自ら捜し求めるものを一生懸命に捜す者がいたということ。

問十　傍線部7「果してそうであれば、現在行われている色々の宣伝がもう少しちがった色彩を帯びてもいい訳ではあるまいか」とある

が、ここから読み取れる筆者の考えの説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。解答番号は **10** 。

① 宣伝に関する消極的な考えを展開してきたが、現在は理想的なやり方で宣伝が行われていると認められる状況であることに思い至り、やがて宣伝の色彩も変わっていくのではないかと楽観している。

② 宣伝の現状について一度消極的な考えを提示し、これを踏まえて理想的な宣伝とは何かを検討し、現在の宣伝の色彩はまだ理想的なものに近づいていないことを明らかにして両者の統合を要求している。

③ 宣伝の現状について自分は否定的に考えすぎかもしれないと振り返ってみたが、理想的な宣伝の行われ方と現在の世の中での宣伝との違いを見ると、決して考えすぎとは言えないと改めて認識している。

④ 宣伝について考えた結果、最終的には宣伝は恐ろしいものではなくむしろ世の中を良くしていく問題ないものであることがわかり、心配のあまり自分の視点がゆがんでいたのではと反省している。

⑤ 宣伝が理想的に行われているならば何も問題はないが、実際には「善い事」の宣伝のような罪の深い人間的な宣伝が大きな問題になっており、宣伝の色彩を見極める目が重要ではないかと提言している。